

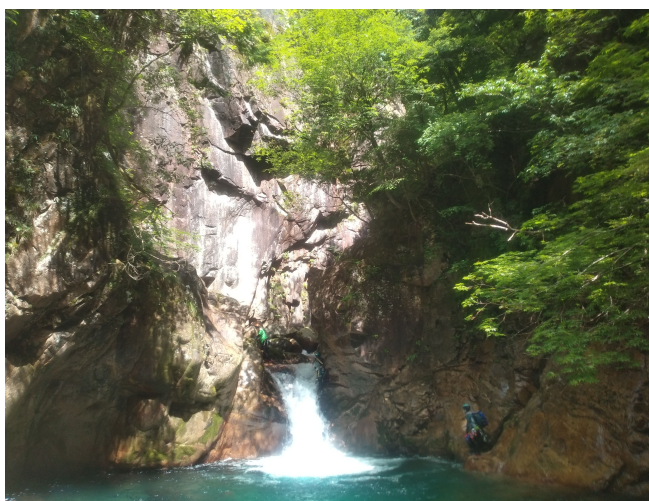
# 長良川水系 川浦谷川 海ノ溝洞 沢登り

日時：8月5日（土）

メンバー：単独

使用したギア：基本装備+ウエットスーツ、ライフジャケット。スローロープ20m、スカイフック

川浦溪谷山域は小雨。7：45川浦溪谷着。雨の降り方は大したことはなかったが、降り続けると遡行中止の判断をしなければいけない。予報では問題なさそうなのでとりあえず準備しながら待機していると6名のパーティーが沢に行くのをみかけ挨拶する。若干雨雲が薄くなり出発することにした。橋のたもとの右側から少し降り、ロープをフィックスし懸垂下降、ロープは敗退用に残置しておく。先行パーティーは橋のたもと左側から入渓し、①1mの小滝で苦戦していた。今日は水量は少ないが流れの勢いが強く中々手ごわい。②大岩の裏側を抜ける。③現実離れしたゴルジュジュ絶景を楽しむ。④CSはボルダームーブで越える。⑤大釜5mは、先行パーティーの攻略見学と泳いで滝つぼの状態を確認。滝から落ちても大丈夫な滝のようだった。先行パーティーの1名が滝から滑落したが、ケガは無し。苦戦しながらも先行が抜けた後、私も滝ギリギリのところから上がる時にスカイフックを使いスリングに立ちこみ水から上がる、流水ギリギリラインを攻める。ホールドを探り、滝の頭に抜ける手前はツルツルでホールドは甘く注意が必要だった。抜けた後も水流、水圧がえげつないので気は抜けなかった。滝上からの荷揚げに腕がパンプし、へろへろ。⑥CS2条1～2mぐらいの落ち込みは近づいてみたが渦巻いた複雑な流れのホワイトウォーター状態で流れが危険な感じだが、水深が浅ければ何とかなんとか行けるかもわからないが、核心のCSの体力を温存し、左岸を巻いた。⑦11：40核心の灰色CSは、先行パーティーアタック中、もう1パーティーは待機していた。待っている間にCS左下の激流突破を3回試みるが、CSの隙間から出てくる流れに阻まれ進めない。12：40予定時間タイムオーバー。キャニオニングで下降開始。飛び込みを交えながら無事入渓地点に戻った13：20。



## 感想

多分もう少し水量が多かったら私の力量では核心まではたどり着けなかっただろう。今回、最大の難所で自分が考えていた攻略方法であるCSの左側からの流芯突破方法を試すことができたが、足が届かない水深で流れが強く、潜れなかった。一度岩にへばりつくことはできたが次の一手のホールドは無かった。突破はできなかったのが少し残念だったが、目的であった核心のCSに触れることができ満足。もし、アブミ等のギアで右側を這い上がっても、狭い岩の上からハーケンを打ちながら側壁を登るか、ツルツル岩のリスクなトラバースか、渇水時期にチャレンジできるかもしれない一旦降りて渦巻いた滝つぼにビビりながら滝際を登れるルートを見出せるか？の選択に迫られる非常に厳しい場面になったと思う。厳しくも美しい海ノ溝谷のゴルジュは素晴らしく、チャンスがあれば今度は、キャニオニング下降し、核心のCSの全体像を見に訪れたいと思う。

